

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	安東 茂樹	授業形態	単独
授業科目名	教職概論				
英 訳	Introduction of Teaching Profession				
教員の免許状取得のための必修科目	科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
	施行規則に定める科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			
配 当 年 次	1年次 後期	必選別	自由科目	単位数	2単位
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>1 【教師の役割や職務内容等の知識を修得し、教職の意義や使命感について理解する】 (1) 公教育の目的と教員の存在意義と教職の職業的特徴を理科している。 (2) 今日の教員に求められる役割と基礎的な資質能力を理解している。</p> <p>2 【求められる教師像、教員の具体的な仕事や役割・サービス等を理解しコミュニケーション力を身につける】 (1) 教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。 (2) 校内の教職員や多様な人材と連携・分担し、チーム学校として組織的に対応する重要性を理解している。</p>					
<p>【授業の概要】</p> <p>子どもや社会から求められる教師像、教員の具体的な仕事や役割、服務規程や身分保障、健康管理、資質・能力及び研修等、教職に必要な知識を修得させ、ピア・サポートやアクティブ・ラーニング等の手法を取り入れて具体的な教育場面での子どもとのコミュニケーション力を磨き、教職への動機付けを図るとともに適性を考えさせる。</p>					
<p>【授業計画】</p> <p>第 1回 教職の意味と教師の存在 第 2回 各種学力テストから見た子どもの学力 第 3回 子どもとその周りの環境の実態 第 4回 教員の仕事と役割 (1) 教科指導 第 5回 教員の仕事と役割 (2) 教科外指導 第 6回 教員の仕事と役割 (3) 学級経営 第 7回 教員の仕事と役割 (4) 学校経営と分掌 第 8回 教員の服務規定と身分保障 第 9回 教員研修の在り方と意義 第10回 教師のメンタルヘルス 第11回 教員に求められる資質能力と自己の適性 第12回 進路選択と職業観 第13回 最近の教育的諸課題と教育改革 第14回 ピア・サポートの意味とアクティブ・ラーニングによる指導 第15回 教職の意義と教師の役割</p>					
<p>【テキスト】</p> <p>・改訂新版 教職入門 教師への道 (吉田辰雄・大森正 共著、図書文化社)</p>					
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>・PISA2009年調査 評価の枠組み－OECD生徒の学習到達度調査 (経済協力開発機構著、明石書店) ・新しい学力テストを読み解く－PISA/TIMSS/全国学力・学習状況調査/教育課程実施状況調査の分析とその課題 (田中耕治著、日本標準) ・教育法規の要点 第6版 (福本みちよ著、酒井書店) ・教育に関する保護者の意識調査・子どもとメディアに関する意識調査報告書 (日本PTA全国協議会著)</p>					

【成績評価】

・期末試験(40%)、レポート(30%)、発表等授業への取組み(20%)、各自のポートフォリオ(10%)で評価する

【履修要件】

勉強や進路等で困っている生徒の気持ちをよく理解し、つまずきを一緒に考えられること。

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	林 孝	授業形態	単独
授業科目名	教育原理				
英 訳	Principles of Education				
教員の免許状取得のための必修科目	科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
	施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想			
配 当 年 次	2年次 前期	必選別	自由科目	単位数	2単位
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>1 【教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。】</p> <p>(1) 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。</p> <p>(2) 子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。</p> <p>2 【教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。】</p> <p>(1) 家族と社会による教育の歴史を理解している。</p> <p>(2) 近代教育制度の成立と展開を理解している。</p> <p>(3) 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。</p> <p>3 【教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。】</p> <p>(1) 家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。</p> <p>(2) 学校や学習に関わる教育の思想を理解している。</p> <p>(3) 代表的な教育家の思想を理解している。</p>					
<p>【授業の概要】</p> <p>教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。そのため、教育に関する理念を多面的に考察し、教育のあり方について大きな影響を与えた人物の教育思想を幅広く考察するとともに、教育の目的や内容・方法について、歴史的な展開を踏まえて、現代日本における教育に求められる原理の理解を図り、教師のあり方を考察する。</p>					
<p>【授業計画】</p> <p>第 1回：教育に関する理念 (1) 社会における教育的機能について</p> <p>第 2回：教育に関する理念 (2) 人間形成の基本と教育の本質について</p> <p>第 3回：教育に関する理念 (3) 生涯学習について</p> <p>第 4回：教育に関する思想 (1) 「助成観」－ソクラテス・ルソーほか</p> <p>第 5回：教育に関する思想 (2) 「助成観」－ペスタロッチー・フレーベルほか</p> <p>第 6回：教育に関する思想 (3) 「伝達観」パウルゼン・クリークほか</p> <p>第 7回：教育に関する思想 (4) 「助成観と伝達観の統合」リット、シュプランガーほか</p> <p>第 8回：教育の目的に関する史的考察</p> <p>第 9回：我が国の教育の目的と目標</p> <p>第10回：教育の内容に関する史的考察</p> <p>第11回：我が国の教育課程の編成のあり方</p> <p>第12回：教育の方法に関する史的考察と教授学習過程の基本</p> <p>第13回：教師論の史的考察と現代日本に求められる教師に関する考察1－専門職としての教師のあり方</p> <p>第14回：現代日本に求められる教師に関する考察2－教師と生徒の人間関係の基本</p> <p>第15回：まとめ</p>					

【テキスト】

講義資料を準備するとともに、適宜プリント資料を配布する。

【参考書・参考資料等】

参考図書一覧を準備し、授業において適宜紹介する。

【成績評価】

随時提出させるレポート（30%）及び試験（70%）で評価する。

【履修要件】

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	田崎 慎治	授業形態	単独
授業科目名	教育心理学				
英 訳	Educational Psychology				
教員の免許状取得のための必修科目	科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
	施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			
配 当 年 次	2 年次 前期	必選別	自由科目	単位数	2 単位
【授業の到達目標及びテーマ】 【幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する】 1. 発達概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 2. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する代表的な理論を理解している。 3 各発達段階における運動発達・言語発達・認知発達・社会性等の発達について、その具体的な内容を理解している。 【生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導の基礎的な考え方を理解する】 1. 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論について理解している。 2. 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 3. 生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。					
【授業の概要】 乳児期から青年期までの心身の発達に関する基礎的知識について学ぶとともに、代表的な学習理論や人格理論に関する知識、生徒理解の方法や教授法、教育評価に関する基礎的なスキルを身に付ける。これらの基礎的な知識を基に、青年期前期における心理的特性を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方やスキルを身に付ける。					
【授業計画】 第 1 回：オリエンテーション：教育心理学の目的と対象 第 2 回：発達の基礎理論 第 3 回：さまざまな発達：言葉と数概念，運動機能，社会性 第 4 回：学習の理論 第 5 回：人格理論 (1) 精神分析理論 第 6 回：人格理論 (2) カウンセリング理論 第 7 回：青年期前期の心理的特徴 第 8 回：子ども理解の方法 第 9 回：学習と教授 (学習の流れ) 第 1 0 回：学習意欲と動機づけ 第 1 1 回：学習指導の方法 第 1 2 回：教育測定，評価と指導 第 1 3 回：障害のある児童生徒への支援 第 1 4 回：気になる児童生徒の理解と支援 第 1 5 回：学校現場における教育心理学の課題					
【テキスト】 プリントを配布する					
【参考書・参考資料等】 中学校学習指導要領（新学習指導要領），高等学校学習指導要領					
【成績評価】 課題提出 (50%)、毎回の振り返りコメント (20%)、授業中の質疑応答・グループワークやディスカッションへの積極的参加態度 (30%) で評価する					

【履修要件】

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	河野 和清	授業形態	単独
授業科目名	教育行財政学				
英 訳	Educational Administration and Finance				
教員の免許状取得のための必修科目	科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
	施行規則に定める科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			
配 当 年 次	3年次 後期	必選別	自由科目	単位数	2単位
【授業の到達目標及びテーマ】					
<p>(1) わが国の公教育や教育行財政の仕組みを、教育法規と関連づけながら理解する。</p> <p>(2) 社会の状況とその変化が学校教育にもたらす影響について考えるとともに、国や地方や学校の制度構造と役割(機能)について理解します。</p> <p>(3) 現代教育における学校、家庭、地域社会の連携協力の重要性と、学校安全・危機管理の意義と対応方法について理解します。</p>					
【授業の概要】 わが国の教育が、どのような社会的、制度的枠組みの中で運用されているか、その制度的実態とそこにどのような課題があるかについて理解します。前半は、公教育の概念や教育基本法に触れながら、現代教育がどのような考え方に基いて行われているかを理念的に検討します。後半は、わが国の教育が実際にどのように実施されているか、その制度実態を国や地方や学校に焦点を当てて考察します。以上を通して、わが国現代教育の特徴や課題や今後の展望について考えます。					
【授業計画】					
第 1回：わが国の学校体系－その特徴と課題－					
第 2回：公教育制度－その概念と制度的原理－					
第 3回：わが国の教育法制－教育法の体系と教育基本法－					
第 4回：教育行政の役割と基本的性格					
第 5回：中央教育行政機関としての文部科学省－その役割と構造－					
第 6回：地方教育行政機関としての教育委員会制度－その役割と構造－					
第 7回：学校経営の構造と過程					
第 8回：学校評議員制度と学校運営協議会制度					
第 9回：学校安全・危機管理の意義と課題					
第10回：教育課程行政					
第11回：就学前教育制度					
第12回：社会教育行政					
第13回：教育財政制度－国と地方の役割－					
第14回：諸外国の教育行政制度－その特徴と今日的課題－					
第15回：わが国の教育政策の動向－その特徴と課題－					
【テキスト】					
河野和清編著『新しい教育行政学』ミネルヴァ書房、2014年。					
【参考書・参考資料等】					
河野和清編著『（改訂版）現代教育の制度と行政』福村出版、2017年。					
【成績評価】					
成績評価は、原則として期末試験（60%）とレポート（40%）で行う。					
【履修要件】					

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	安東 茂樹	授業形態	単独
授業科目名	教育課程論				
英 訳	Introduction of Curriculum				
教員の免許状取得のための必修科目	科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
	施行規則に定める科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			
配 当 年 次	3年次 後期	必選別	自由科目	単位数	2単位
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>1 【教育課程の役割・機能・意義を考慮し、教育課程の編成方法を理解する】 (1) 学習指導要領の性格及び位置付け及び教育課程編成の目的を理解している。 (2) 教科内容、教材、教育方法、教科外学習、教育方針等を考慮した教育課程編成の方法を理解している</p> <p>2 【教育課程(カリキュラム)編成の基本に則り、マネジメントする意義を理解する】 (1) 教育課程編成の基本原則を理解している。 (2) 学校教育課程全体に対応したカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。</p>					
<p>【授業の概要】</p> <p>学校教育の基本的な考え方を概観し、学校教育の役割を教育法規、学習指導要領、学校の教育方針等をふまえた教育課程(カリキュラム)について理解し、その編成の方法について実践的に検討する。その中で「学校運営における危機管理」、「総合的な学習の時間」、「選択教科」、「教科外活動」など学校の特色を生かすカリキュラムについても実践的に取り扱う。</p>					
<p>【授業計画】</p> <p>第 1回 教育課程の基本 第 2回 教育課程に関する法規 第 3回 学習指導要領の意義と役割 第 4回 学習指導要領の歴史的変遷 第 5回 教育課程編成における学習内容と評価との関わり 第 6回 学習指導要領を生かすための学習環境 - 設備・教科書・学習材 - 第 7回 小・中・高等学校のカリキュラム開発の課題 第 8回 学校運営における危機管理－安全を確保する学習環境とカリキュラム 第 9回 学校の特色・生徒の個性を生かすカリキュラム 第10回 特色ある学校づくり (1) 総合的な学習の時間 第11回 特色ある学校づくり (2) 選択教科、教科外活動など 第12回 特色ある学校づくり (3) カリキュラムと評価 第13回 教育課程 (カリキュラム) 編成の実例 (1) 中学校の例 第14回 教育課程 (カリキュラム) 編成の実例 (2) 高等学校の例 第15回 教育課程の編成とまとめ</p>					
<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践に活かす教育課程論・教育方法論(樋口直宏、林尚示、牛尾直行編著、学事出版) ・特色ある教育活動の展開のための実践事例集－「総合的な学習の時間」の学習活動の展開－中学校・高等学校編(文部省 大日本図書) <ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領 ・高等学校学習指導要領 					
<p>【参考書・参考資料等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代中等教育課程入門(吉富芳正編著、明星大学出版部) ・教育課程論(柴田義松編著、学文社) 					
<p>【成績評価】</p> <p>確認テスト(30%)、レポート(30%)、発表質疑(20%)、授業への取組み(20%)で評価する。</p>					

【履修要件】

教育基本法や教育三法の改正・学習指導要領等の学習を積んだ上で、自分が文科大臣や校長の立場になって、社会情勢が変化する中で、国・地方・教育委員会・地域からの指導や協力を得ながら、良いカリキュラムをつくる仕組みと具体例を考えること。

区分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	春田 裕和	授業形態	単独
授業科目名	道徳教育の指導法				
英 訳	Methodology of Moral Education				
教員の免許状取得のための必修科目	科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
	施行規則に定める科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法			
配 当 年 次	3年次 後期	必選別	自由科目	単位数	2単位
【授業の到達目標及びテーマ】 1 【道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する】 (1) 道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。 (2) 道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。 (3) 子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。 (4) 学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。 2 【学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する】 (1) 学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。 (2) 道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。 (3) 道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。 (4) 授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。 (5) 道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。 (6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。					
【授業の概要】 道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動であることを講義、調査研究等により理解する。 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。 なお、事前学習として次回授業内容に相当する教科書の該当範囲を読んでおく必要がある。事後学習として、授業で使用したレジュメの熟読により復習し、レジュメに関連する調査研究レポート10件の作成、教材研究を行い、模擬授業学習指導案1件の作成と模擬授業の実施、模擬授業実施のためのグループ練習等を授業時間外に行う必要がある。					
【授業計画】 第 1回：道徳教育の意義と目的・目標 第 2回：道徳教育の動向と課題（世界の動向、教育基本法と道徳教育、現代の課題解決と道徳教育） 第 3回：日本における道徳教育の歴史的展開（江戸後期から現在までの道徳教育） 第 4回：道徳性の発達理論（ピアジェ、ブル、コールバーグの道徳性発達論） 第 5回：学校教育における道徳教育①（道徳教育の教育課程上の位置づけとその目標、指導制・全単価と年間指導制・教書・教科等の関連） 第 6回：学校教育における道徳教育②（学習指導要領における「特別の教科 道徳」の理念と方法） 第 7回：道徳の教材研究の理論と方法（指導過程と学習指導案、主体的・対話的で深い学びの授業） 第 8回：道徳授業論の展開①（読み物・視聴覚教材を用いた授業、問題解決的な学習を用いた授業） 第 9回：道徳授業論の展開②（構成的グループエンカウンター・モラルジレンマ学習・モラルスキル学習を用いた授業） 第10回：道徳授業論の展開③（「いじめ」・「情報モラル」を対象とした授業、体験活動を用いた授業） 第11回：道徳教育における評価（教育活動全体を通じて行う道徳教育と「特別の教科 道徳」の評価） 第12回：学習指導案の作成（グループで実施する模擬授業学習指導案の作成） 第13回：模擬授業①（模擬授業の実施、主体的対話的で深い学びのために、講評・振り返りをもとに改善案の検討） 第14回：模擬授業②（模擬授業の実施、各種教材の活用例、講評・振り返りをもとに改善案の検討）					

第15回：今後の道徳教育の課題とまとめ

定期試験

【テキスト】

貝塚茂樹、関根明伸「道徳教育を学ぶための重要項目100」（教育出版）

【参考書・参考資料等】

「中学校学習指導要領」、「中学校学習指導要領解説―特別の教科道徳編―」（新学習指導要領）、「高等学校学習指導要領」、「高等学校学習指導要領解説―総則編―」、「私たちの道徳 中学校」（文部科学省）、中学校道徳副読本「中学生の道徳 自分を見つめる」（廣済堂あかつき）、「灯し続けることば」（小学館）

【成績評価】

授業中の質疑応答・ディスカッションへの関心・意欲（15%）、調査研究レポート・学習指導案（40%）、模擬授業（15%）、定期試験（30%）の総合評価

【履修要件】

2年生までの教職課程の教職科目を修得していること。

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	安東 茂樹	授業形態	単独
授業科目名	特別活動の指導法				
英 訳	Methodology of Special Activities				
教員の免許状取得のための必修科目	科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
	施行規則に定める科目区分又は事項等	特別活動の指導法			
配 当 年 次	3 年次 前期	必選別	自由科目	単位数	2 単位
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点をもつとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p> <p>1 【特別活動の意義、目標及び内容を理解する。】 (1) 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 (2) 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解している。 (3) 学級活動・ホームルーム活動の特質を理解している。 (4) 児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。</p> <p>2 【特別活動の指導の在り方を理解する。】 (1) 教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解している。 (2) 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解している。 (3) 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 (4) 特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。</p>					
<p>【授業の概要】 特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体であることに鑑み、教育課程の領域に位置づく特別活動についての理解を深めるとともに、特別活動を進めることのできる教師としての実践的指導力の基礎を培う。</p>					
<p>【授業計画】</p> <p>第 1 回：特別活動の指導法への視点 — 講義概要の理解とオリエンテーション 第 2 回：特別活動の系譜と教育実践に占める位置 第 3 回：特別活動への期待 第 4 回：特別活動の目的論(1)：特別活動の目標の構造的理解と方法原理の理解 第 5 回：特別活動の目的論(2)：個と集団、生き方についての理解 第 6 回：特別活動の意義 第 7 回：特別活動の内容に係る確認とその概説 第 8 回：特別活動にあたる教師に求められる視座：特別活動の指導理念としての人間観と基本的視点 第 9 回：特別活動の内容と方法 (1) 学級活動(1)：学校の教育活動に占める学級活動の位置を中心に 第10回：特別活動の内容と方法 (2) 学級活動(2)：学級活動における話し合い活動を中心に 第11回：特別活動の内容と方法 (3) 生徒会活動 第12回：特別活動の内容と方法 (4) 学校行事 第13回：特別活動の指導の充実のために (1)：体験的活動についての理解 第14回：特別活動の指導の充実のために (2)：特別活動の進め方のポイントの理解 第15回：まとめ<学習内容の振り返りと自身の学びの深化の共有></p>					

【テキスト】

講義資料を準備するとともに、適宜プリント資料を配布するとともに、取得免許に係る次の『解説』を指定する。
文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 東山書房、2018年。
文部科学省『高等学校学習指導要領解説特別活動編』 海文堂出版、2010年。

【参考書・参考資料等】

山田浩之編『特別活動論』 協同出版、2014年。
なお、参考図書一覧を準備し、授業において適宜紹介する。

【成績評価】

随時提出させるレポート（30%）及び試験（70%）で評価する。

【履修要件】

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	安東 茂樹	授業形態	単独
授業科目名	教育方法論				
英 訳	Methodology on Education				
教員の免許状取得のための必修科目	科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
	施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）			
配 当 年 次	2年次 前期	必選別	自由科目	単位数	2単位
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>1 【教育の目的に適した指導技術を身に付け、生徒の資質・能力を育成する教育の方法を理解する】</p> <p>（1）話法・板書など授業を行う上での基礎的技術を身に付けている。</p> <p>（2）生徒に求められる資質・能力を育成するための、教育方法の基礎的理論と実践を理解している。</p> <p>2 【情報機器を活用した授業力や教材の作成・活用に関する基礎的能力を身に付ける】</p> <p>（1）生徒の興味・関心を高める課題や学習内容のまとめに情報機器を活用して教材を作成・提示できる。</p> <p>（2）生徒の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。</p>					
<p>【授業の概要】</p> <p>授業の目的や生徒の願いにそった授業とは何かを考え、教材開発の視点や発問の切り口、授業の流れ、評価等のスキルを学び、教育効果を高めるために最適の教育方法、教育機器、教材・教具等を選択し、効果的に活用する方法を検討する。実際に活用例を発表・議論し合い、題解決をめざしてよりよい方法を探る。</p>					
<p>【授業計画】</p> <p>第 1回 学習指導の原理 1（問題解決学習と系統学習、発見学習） ※ガイダンスを含む</p> <p>第 2回 学習指導の原理 2（動機づけと教師期待効果）</p> <p>第 3回 学習指導の形態 1（一斉教授、小集団学習、個別指導）</p> <p>第 4回 学習指導の形態 2（ティームティーチングと学習環境）</p> <p>第 5回 授業づくり 1（教授の三角形と教材・発問、授業の計画づくり）</p> <p>第 6回 授業づくり 2（学校現場における授業実践例）</p> <p>第 7回 授業づくり 3（学活の指導案作成と発表）</p> <p>第 8回 教育工学的な指導法 1（視聴覚教材とメディア、CAI と教材ソフト）</p> <p>第 9回 教育工学的な指導法 2（教育学と学校教育）</p> <p>第 10回 授業分析を通じた教育方法（伝統的分析、定量的・質的授業分析、刺激回想法）</p> <p>第 11回 授業づくり 4（教科の指導案作成と発表）</p> <p>第 12回 教育評価を生かした教育方法 1（学力の概念と学力調査、指導要録と通知表・調査票）</p> <p>第 13回 教育評価を生かした教育方法 2（到達度評価、ポートフォリオ評価）</p> <p>第 14回 授業づくり 5（総合的な学習の指導案作成と発表）</p> <p>第 15回 これからの教育実践とまとめ</p>					
<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践に活かす教育課程論・教育方法論（樋口直宏・林尚示・牛尾直行 編著 学事出版） ・言語活動の充実に関する指導事例集 中学校版・高等学校版（文科省） 					
<p>【参考書・参考資料等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法（佐藤学 著、放送大学叢書） ・科学的根拠で示す学習意欲を高める 12 の方法（辰野千壽 著、図書文化） ・意欲を引き出す授業デザイン（鈴木誠 著、東洋館出版社） ・言語活動実践ガイド（広島県教育委員会 編著、ぎょうせい） ・広島県教育資料（広島県教育委員会 著） 					

【成績評価】

・レポート及び指導案の提出物(70%)、発表・議論等の授業への取組み(30%)で評価する。

【履修要件】

学習指導案を作成するには、様々な教材・教育方法・評価の知識とともに生徒の気持ちや考え方のパターン等をしっかりと見極められる目を備えておくこと。

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	小川 潔	授業形態	単独
授業科目名	生徒・進路指導論				
英 訳	Student Guidance and Career Education				
教員の免許状取得のための必修科目	科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
	施行規則に定める科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
配 当 年 次	2年次 後期	必選別	自由科目	単位数	2単位
【授業の到達目標及びテーマ】 1 【生徒指導及び進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する】 (1) 教育課程における生徒指導及び進路指導・キャリア教育の位置付けと意義を理解している。 (2) 学校の教育活動全体を通じた生徒指導・進路指導・キャリア教育の指導の在り方を理解している。 (3) 集団指導・個別指導の方法原理及び教育相談体制の進め方を理解している。 2 【個別の課題を抱える生徒への指導と関係機関等との連携の在り方を理解する】 (1) 学級・教科担任、生徒指導主事等の立場や役割並びに組織的な取組の重要性を理解している。 (2) 規範意識の醸成及び自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を例示することができる。 (3) 校則・懲戒（高校では停学、退学含む）・体罰等の生徒指導に関する法令の内容を理解している。 (4) 今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。 3 【ガイダンスとキャリア・カウンセリングの考え方と実践の在り方を理解する】 (1) ガイダンス機能を生かした全体指導の進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解している。 (2) キャリア形成に基づく自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示できる。 (3) キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法を説明することができる。					
【授業の概要】 生徒指導及び進路指導・キャリア教育は「生きる力」の育成を目指す学校教育目標を達成するための重要な機能であり、全ての生徒の人格の完成に向けて行われることを理解すると共に、生徒の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質や能力を育む教育活動であることを、理論と実践の両面から具体的に考え深める授業とする。学生の教師としての人間観、発達観、学習観を形成し、多面的・多角的な視点から考え問題解決を図る主体性を培う。教育現場の問題を演習課題に設定し協同的・対話的な学びを展開し、組織体制の機能化を担う知識・素養を身に付ける。					
【授業計画】 第 1回：教育課程における生徒指導の位置付け 第 2回：教育課程と生徒指導 ～各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動～ 第 3回：集団指導・個別指導の方法原理 ～人間観、発達観、学習観、指導観～ 第 4回：教育相談体制の意義と進め方 第 5回：学校における生徒指導体制 ～学級・教科担任、生徒指導主事の役割 第 6回：基礎的な生活習慣の確立と規範意識を育む生徒指導 第 7回：自己教育力を育む生徒指導の機能 第 8回：生徒指導に関する法制度等 ～校則・懲戒・体罰等～ 第 9回：生徒指導上の課題及び対応の視点 ～暴力行為・いじめ・不登校等～ 第10回：今日的な生徒指導上の課題及び関係機関等との連携 ～SNSや性に関する課題、児童虐待等～ 第11回：進路指導・キャリア教育の意義と原理 第12回：進路指導・キャリア教育の組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携 第13回：キャリア教育の視点に基づくカリキュラム・マネジメント 第14回：ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点 ～職場体験学習等の振り返り～ 第15回：キャリア・カウンセリングの考え方と実践方法 ～キャリア形成に係る自己評価とポートフォリオ活用～ 定期試験					
【テキスト】 「生徒指導提要」（文部科学省） 「中学校キャリア教育の手引き」（文部科学省）					

【参考書・参考資料等】

「小学校学習指導要領解説―総則編―」（新学習指導要領）（東洋館出版社）

「中学校学習指導要領解説―総則編―」（教育出版）

「高等学校学習指導要領解説―総則編―」（東山書房）

「生徒指導のてびき（改訂版）」（広島県教育委員会）

小泉令三編著「よくわかる生徒指導・キャリア教育」（ミネルヴァ書房）

河村茂雄編著「生徒指導・進路指導の理論と実際」（図書文化社）

【成績評価】

定期試験（50％）、授業中の質疑応答・協同的対話的演習への関心・意欲（20％）、レポート・小課題・ワークシート等（30％）の総合評価

【履修要件】

特記事項無し

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	田崎 慎治	授業形態	単独
授業科目名	教育相談				
英 訳	Counseling				
教員の免許状取得のための必修科目	科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
	施行規則に定める科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			
配 当 年 次	3 年次 後期	必選別	自由科目	単位数	2 単位
【授業の到達目標及びテーマ】 【幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける】 1. 学校現場において教育相談を行う上で重要となる幼児、児童及び生徒の発達の状況を理解することができる。 2. 個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要なカウンセリングの理論や技法などの基礎的知識を習得している。					
【授業の概要】 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を学び、幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味や発するシグナルに気づき把握する方法を習得する。さらに、カウンセリングの基礎的な技法を体験的に学ぶとともに、他の専門機関との連携や校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解し、職種や校務分掌、相談対象に応じた目標の立て方や進め方を学ぶ。					
【授業計画】 第1回：オリエンテーション：生徒指導と教育相談 第2回：教育相談の目標と指導原理 第3回：乳幼児期から児童期における発達 第4回：思春期から青年期における発達 第5回：発達障害 第6回：子ども理解の方法 第7回：教育相談と心理教育的援助サービス 第8回：子どもの問題行動とその対応（1）：いじめ、非行、不登校・不登園 第9回：子どもの問題行動とその対応（2）：SNS、インターネット上のトラブル 第10回：ピア・サポート 第11回：カウンセリングの基礎理論と技法 第12回：教師のためのカウンセリング技法（1）：共感的理解、カウンセリング・マインド 第13回：教師のためのカウンセリング技法（2）：受容と傾聴 第14回：チーム支援と外部連携 第15回：まとめ：教育相談の意義と課題					
【テキスト】 毎回資料を配布する。					
【参考書・参考資料等】 中学校学習指導要領（新学習指導要領）、高等学校学習指導要領、生徒指導提要					
【成績評価】 課題提出（50%）、毎回の振り返りコメント（20%）、授業中の質疑応答・グループワークやディスカッションへの積極的参加態度（30%）で評価する					
【履修要件】					

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	土屋 英男 安東 茂樹	授業形態	複数
授業科目名	教育実習指導				
英 訳	Guidance of Teaching Practice				
教員の免許状取得のための必修科目	科 目	教育実習に関する科目			
	施行規則に定める科目区分又は事項等				
配 当 年 次	3 年次 後期	必選別	自由科目	単位数	2 単位
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>1 【教育実習における教師としての心構えや、授業に対する実践的態度を理解し実習に備える】</p> <p>(1) 目指す教科の学習指導案（細案）を作成することができる。</p> <p>(2) 目指す教科の模擬授業が適切にできる。</p> <p>2 【教育実習後に自己評価をするとともに他学生の実習を参考にして実践力の向上を図る】</p> <p>(1) 教育実習で必要な知識と態度について理解する。</p> <p>(2) 実習後にその成果について自己分析できる。</p>					
<p>【授業の概要】</p> <p>学校教育の基本的な考え方を概観し、学校教育の役割を教育法規、学習指導要領、学校の教育方針等をふまえた教育課程(カリキュラム)について理解し、その編成の方法について実践的に検討する。その中で「学校運営における危機管理」、「総合的な学習の時間」、「選択教科」、「教科外活動」など学校の特色を生かすカリキュラムについても実践的に取り扱う。授業前には各種の教育資料を読んでおき、授業後には黒板を使って授業の練習をすること。</p>					
<p>【授業計画】</p> <p>第 1 回：教育実習の意義と目的</p> <p>第 2 回：社会人としての常識と規範意識</p> <p>第 3 回：教職員としてのサービスの理解と対応</p> <p>第 4 回：教師および社会人としての礼儀とモラル</p> <p>第 5 回：教育実習生としての義務と態度</p> <p>第 6 回：生徒への理解と交流上の注意</p> <p>第 7 回：表現・コミュニケーションの在り方と実際</p> <p>第 8 回：板書等、視聴覚機器の利用上の注意</p> <p>第 9 回：わかりやすい授業とは（他の教科教育法で履修済みの場合は重複するが、視点が異なる）</p> <p>【この段階までに実習が始まる学生に対しては個別指導】</p> <p>第 10 回：模擬授業（学習指導案作成の準備－他の教科教育法で履修済みであっても視点は異なる）</p> <p>第 11 回：模擬授業（学習指導案作成－他の教科教育法で履修済みであっても視点は異なる）</p> <p>事後指導【この段階までに実習が終了した学生に対しては個別指導】</p> <p>第 12 回：教育実習の反省と自己評価・相互評価</p> <p>第 13 回：礼状等、文書、書類の形式等の理解</p> <p>第 14 回：必要な文書の作成練習</p> <p>第 15 回：まとめ及び教育実習の経験と今後の人生</p>					
<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校または高等学校学習指導要領 ・中学校または高等学校の各種教科書 ・必要に応じて配布する資料 					
<p>【参考書・参考資料等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習教科に関する資料 					

【成績評価】

- ・ 学習指導案・模擬授業等（70%）、マナーの習得等授業への取組み（30%）で評価する。

【履修要件】

- ・ 3年生の段階で必要単位を取得できていない学生には、教育実習を許可しない。

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	安東 茂樹	授業形態	単独
授業科目名	教育実習A（これは高等学校教育実習を兼ねる）				
英 訳	Teaching Practice A				
教員の免許状取得のための必修科目	科 目	教育実践に関する科目			
	施行規則に定める科目区分又は事項等	教育実習			
配 当 年 次	4年次 前期	必選別	自由科目	単位数	4単位
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>1 【授業を実際に体験することによって教職に対する意欲を高め、教科および教科外指導に対する実践的指導力を修得する】</p> <p>(1) 実習教科の教材研究が十分できる。</p> <p>(2) 生徒にとって分かりやすい授業ができる。</p> <p>(3) 学校のルールに従った行動ができる。</p>					
<p>【授業の概要】</p> <p>学校運営を直接参観するとともに、授業を実際に体験し、教職に就くにあたっての事前の実践を行う。</p>					
<p>【授業計画】</p> <p>以下の内容を実習校の指導の下で履修・体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校における業務の概要 ・ 教職に対する理解 ・ 守るべき義務の実践 ・ 中学生に対する理解 ・ 学級運営の参観と、指導教員の指示の下での参加 ・ 担当する学習指導案の作成 ・ 学習細案の作成 ・ 授業および指導力を高めるための教材研究 ・ 実践的指導力の向上 ・ 指導教員の指示の下での活動体験 ・ その他 実習校が必要と認めた内容 					
<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校学習指導要領 ・ 中学校の各種教科書 ・ 必要に応じて中学校から配布される資料 					
<p>【参考書・参考資料等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習教科に関する資料 					
<p>【成績評価】</p> <p>実習校を訪問して履修状況を聴き、学習指導案等の準備と仕上がりを観察する(50%)とともに、実習校の評価等(50%)を判定材料にして総合的に評価する。</p>					
<p>【履修要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 別途開講される「教育実習指導」を履修すること。 ・ 実習に適さないと判断したものは受講を許可しない。 ・ 実習校の指示に従い、態度・マナーに注意すること。 ・ 中学校教員免許の取得に必修(高等学校教育実習を兼ねる)。 					

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	土屋英男 安東茂樹	授業形態	複数
授業科目名	教育実習 B				
英 訳	Teaching Practice B				
教員の免許状取得のための必修科目	科 目	教育実習に関する科目			
	施行規則に定める科目区分又は事項等				
配 当 年 次	4年次 前期	必選別	自由科目	単位数	2単位
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>1 【授業の観察と体験によって教職に対する意欲を高める】 (1) 実習教科の授業研究や教材研究が十分できる。 (2) 教員の実務に対する認識を正確に持つことができる。</p> <p>2 【教科および教科外指導に対する実践的指導力を修得する】 (1) 生徒にとって分かりやすい授業が実践できる。 (2) 学校のルールを理解し、かつそれに従った行動ができる。</p>					
<p>【授業の概要】 学校運営を現場に赴いて授業等を直接参観するとともに、授業を教壇に立って実際に体験し、教職に就くにあたっての事前の実践を行い、授業実践者としての心構えと意識を高める。</p>					
<p>【授業計画】 以下の内容を実習校の指導の下で履修・体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校における業務の概要 ・教職に対する理解 ・守るべき義務の実践 ・高校生に対する理解 ・学級運営の参観と、指導教員の指示の下での参加 ・担当する学習指導案の作成 ・学習指導細案の作成 ・授業および指導力を高めるための教材研究 ・実践的指導力の向上 ・指導教員の指示の下での活動体験 ・その他 実習校が必要と認めた内容 					
<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校学習指導要領 ・高等学校の各種教科書 ・必要に応じて高等学校から配布される資料 					
<p>【参考書・参考資料等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学や実習校から配布される実習教科に関する資料 					
<p>【成績評価】 実習校を訪問して履修状況を聴き、学習指導案等の準備と仕上がりを観察する(50%)とともに、実習校の評価等(50%)を判定材料にして総合的に評価する。</p>					

【履修要件】

- ・別途開講される「教育実習指導」を履修すること。
- ・実習に適さないと判断した学生は受講を許可しない。
- ・実習校の指示に従い、態度・マナーに注意して参観・実習を行うこと。
- ・教育実習 A を履修しない場合は、高校教員免許の取得に必修。

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	土屋英男、安東茂樹、 中村格芳、神垣太持	授業形態	複数
授業科目名	教職実践演習（中・高）				
英 訳	Seminar in the Teaching Profession Practice (Junior High School and High School)				
教員の免許状取得のための必修科目	科 目	教育実習に関する科目			
	施行規則に定める科目区分又は事項等	教職実践演習			
配 当 年 次	4年次 後期	必選別	自由科目	単位数	2単位
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>1 【教職の意義、教師の役割・責任を自覚し、教科指導・学級経営・生徒理解・対人関係能力等の力量を向上させる】</p> <p>(1) 教職の意義や教師の役割・責任を理解している。</p> <p>(2) 教科内容の基礎、教育法の基礎をもとに、教材開発力・生徒理解力・授業実践力を身につける。</p> <p>2 【自己の資質能力を確かめながら教師としての総合実践能力の向上を目指す】</p> <p>(1) 自分の資質能力を確認して課題を明らかにし、自己指導力の重要性を理解している。</p>					
<p>【授業の概要】</p> <p>これまでの教職課程の学修を振り返り、教職の意義・責任について自覚を高め、社会性や対人関係能力等の向上を図る。さらに、生徒理解、学級経営等の課題意識を高めた上で、学校現場の見学・調査を行ない、教育実践を理解するとともに自己課題を分析する。そして、教科内容等の指導力を高めるために授業を批評する目を養い、模擬授業をしながら、授業力の分析・改善を行なう。最後に自分の資質能力の確認を行なって課題を明らかにし、PDCAサイクルの自己指導力の重要性に気づかせる。</p>					
<p>【授業計画】</p> <p>第 1回 これまでの学修の振り返り</p> <p>第 2回 教職の意義・教員の役割、職務内容、子どもに対する責務</p> <p>第 3回 社会性と対人関係能力（組織の一員としての自覚、保護者・地域の関係者との人間関係の構築）</p> <p>第 4回 ソーシャルスキル・対人関係能力トレーニング</p> <p>第 5回 生徒理解と学級経営</p> <p>第 6回 学級経営案の作成・討論</p> <p>第 7回 学校現場の見学・調査</p> <p>第 8回 社会性と対人関係能力（グループ討論）</p> <p>第 9回 生徒理解と学級経営（グループ討論）</p> <p>第10回 教科内容等の指導力</p> <p>第11回 学習指導案・教材等の作成・修正</p> <p>第12回 模擬授業・討論（1）</p> <p>第13回 模擬授業・討論（2）</p> <p>第14回 教科内容等の指導力（グループ討論）</p> <p>第15回 資質能力の確認、まとめ</p>					
<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の『学習指導要領解説』（文部科学省） ・教職入門（吉田辰雄・大森正 編著、図書文化） ・生徒指導提要（文部科学省著、教育図書出版） ・文科省「言語活動の充実に関する指導事例集」 ・実践に活かす教育課程論・教育方法論（樋口直宏・林尚示・牛尾直行編著、学事出版） 					
<p>【参考書・参考資料等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピア・サポートではじめる学校づくり 中学校編』（滝充編著、金子書房） ・実践！ソーシャルスキル教育（相川充・佐藤正二編、図書文化） ・学級経営実践チェックリスト（有村久春編、教育開発研究所） 					

【成績評価】

レポート提出(70%)、模擬授業(20%)、討論(10%)で評価する。

【履修要件】

該当教科の教職免許を得るのにふさわしい力量をつけるため、様々な観点から自分を鍛え、学校現場に求められる人材となれるように努めること。